

RS ウイルス感染症の報告が続いています。

【概況】

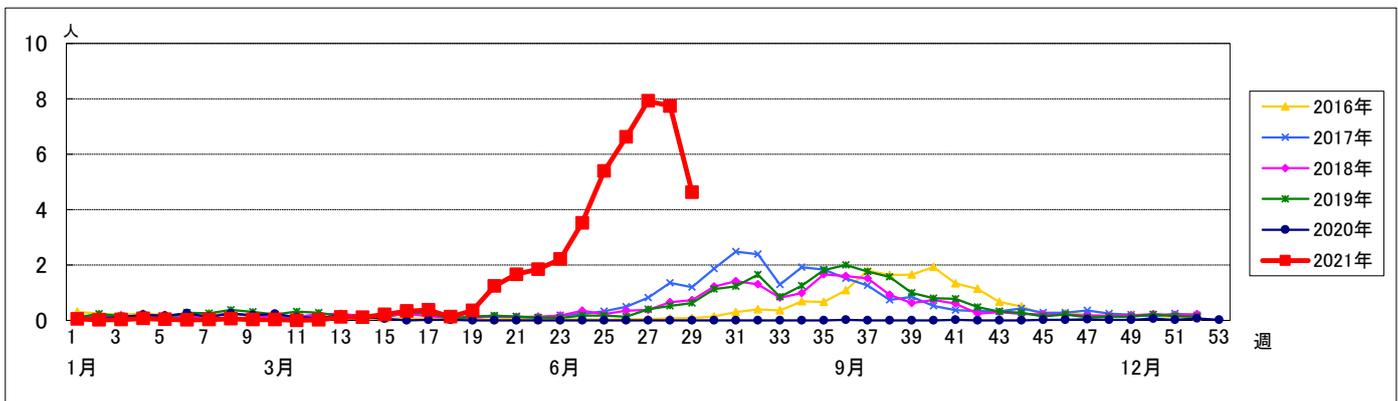
2021 年第 29 週(7 月 19 日～7 月 25 日)の定点^{※1}あたりの患者報告数は **4.62^{※3}**で、例年より報告数の多い状態が続いています。

※1 定点とは、毎週患者発生状況を報告していただいている医療機関(RS ウイルス感染症は市内小児科定点 94 か所から報告されています)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

※2 追加報告がありましたため、以前お知らせしました情報から報告数が更新されています。

※3 連休で休診となる定点医療機関も多く、流行の実態を正確に反映していない可能性があります。

1 市内流行状況：2021 年 5 月頃より増加し始め、第 27 週は定点あたり 7.92^{※2}、第 28 週は 7.73^{※2}、第 29 週は 4.62^{※3}と、報告数の多い状態が続いています。



RS ウイルス感染症とは^{※4※5※6}

2～8 日(典型的には 4～6 日)の潜伏期において、発熱や鼻汁などの症状が数日続きます。多くは軽症ですが、その後咳がひどくなったり、喘鳴、呼吸困難などの症状が出現したり、特に乳児では、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。家族に乳幼児がいる場合、注意が必要です。通常大人では軽症ですが、高齢者で基礎疾患(慢性呼吸器疾患、心疾患等)のある方は、重症化する場合があります。

【予防対策】

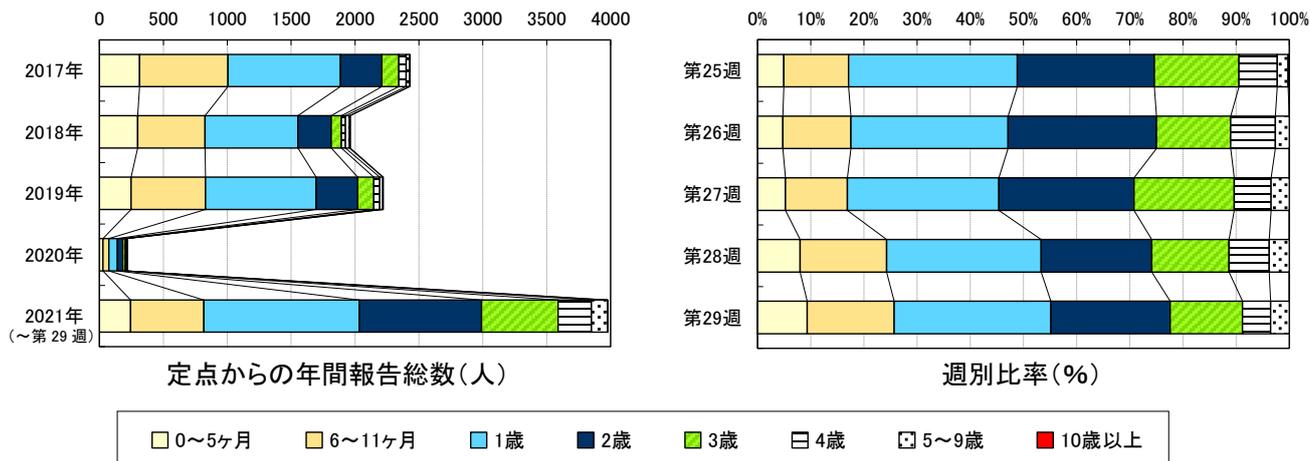
感染経路は飛沫感染と接触感染で、感染予防として、手洗いの徹底、手すり・おもちゃなどの消毒、特に乳幼児や高齢者と接触する大人のマスク着用等が必要です。

※4 [IDWR 2021 年第 27 号<注目すべき感染症> 直近の新型コロナウイルス感染症および RS ウイルス感染症の状況](#)

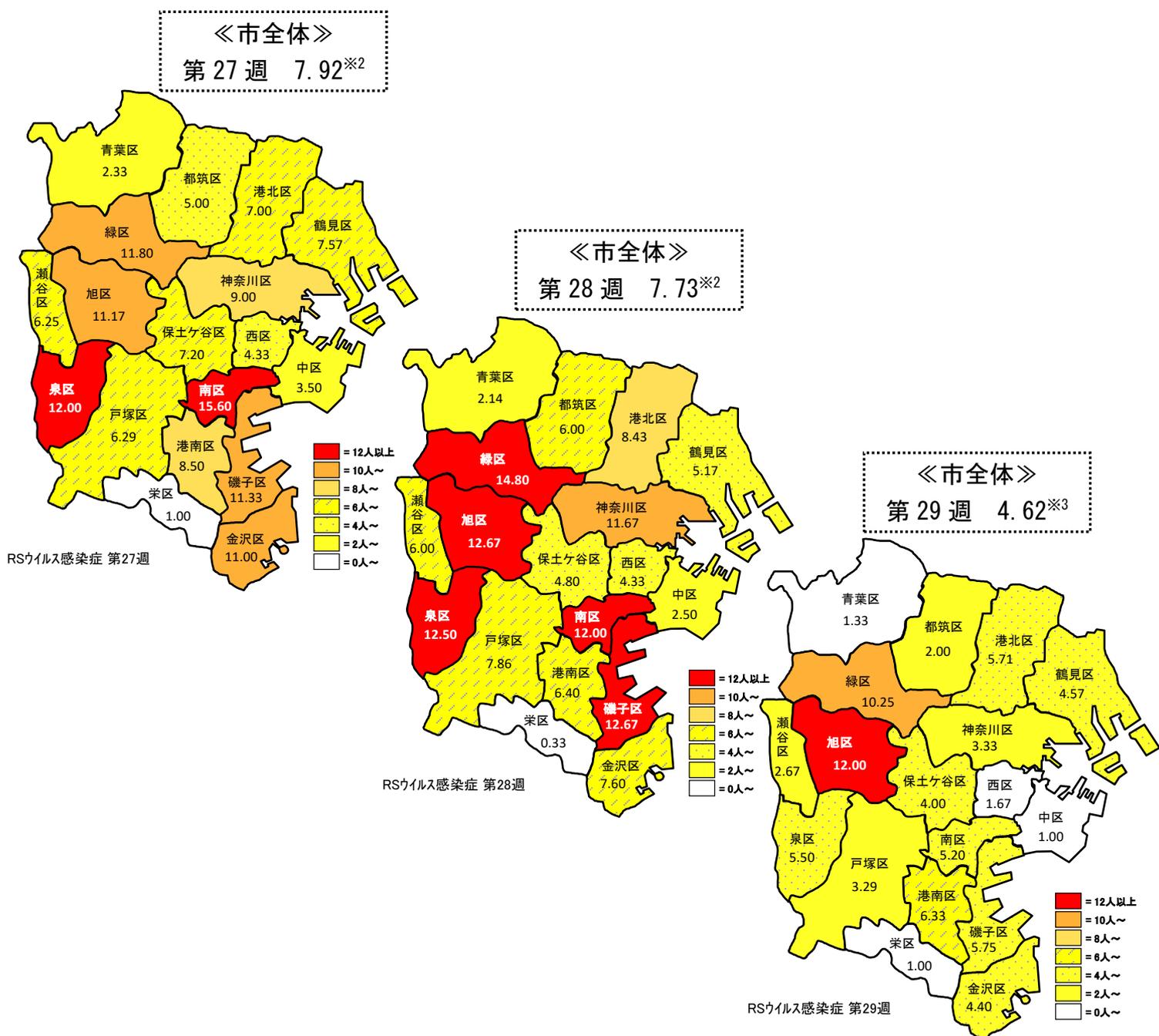
※5 [RS ウイルス感染症 Q&A\(厚生労働省\)](#)

※6 [IASR Vol.39 p212_213 : 2018 年 12 月号「高齢者の RS ウイルス感染」](#)

2 年齢層別集計：1歳の割合が最も多く、また、例年に比べ2歳以上の割合が多くなっています。



3 地図で表した直近3週間の区別流行状況（塗り分けの数字は定定点あたり報告数）



【お問い合わせ先】横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045 (370) 9237